



誠意って一体なんだろうね



人事院勧告についての対応交渉で編集者は思う

11月14日、今年度の人事院勧告について2回目の交渉がもたれた。前回の交渉から約一ヵ月半、使用者側は、組合から要求されたデータを持参しての交渉かとも思われたが、毎度のような内容で、毎回がっかりと書くのはしゃくであるが、「がっかり」と書かざるえない内容だった。

使用者側は何の資料も組合へ提示しないまま、一貫して「人事院勧告へ準拠することが、社会に対して示しがつく」また「他大学の状況と合わせながら方針を出した」と合理性のある説明は一切できませんでした。組合はただ「給与をあげる!!」とは言ってはならず、合理性のある回答が得られれば当然、交渉の中で妥協しなければならないところも出てくるでしょう。だからデータを出しなさいと言っているのです。例えば…。

「大学職員の賃金(職種別)の平均を出して民間と比較してみたら」

「0.3%下げなかったら、大学側がいくら賃金負担しなければならなくなるのか」

「退職金への負担は??」「これらを行うことにより大学の経営はどうなるのか」等のデータを出してから交渉というのは始まっていくのです。前回の交渉から一ヵ月半、使用者はいったい何をしていたのだろうか。もしかして、このままでも教職員からは何も文句は出ないでやっていけると判断していたのだろうか。だから組合にはあんな不誠実な対応なんじゃないのだろうかと考えてしまいます。

また組合は、データがない以上、交渉として成り立たないんで、次回の交渉を要求すれば、「時間がないのでやれるかどうかわからない」なんてことを理事は言うのですよ。何言ってんだか…。使用者側が対応を延し、ちゃんとしたモノを出さないからこうなっているのであって、そのせいで交渉になっていないという現実をわかっていない。また、このような不誠実な対応では「(熊本県)労働委員会に斡旋の申し入れをする」との組合発言に理事は「行っていいですよ。しょうがない」なんてことを軽々と言うのですよ。これって大学内の内恥を世間に公表するってことですよ。ホント信じられる??

それに、組合はこの交渉には「学長」の出席が不可欠であると学長の出席を要求しています。しかし、出てくるのは労務担当理事であり「学長から一任されている」としか言わない。ということは、上記の発言は学長がしたととられかねないですよ。一法人をまとめる長が、軽々しく内恥をさらすようなことを言いますか??学長、確かに忙しいでしょう。しかし、大学をまとめる長として、重要な交渉にはちゃんと出てきましょうよ。それが誠意ってもんだと思います。

あっ、このままでは「ぼやき」もできないけど仕方がない。

皆さんのところへ「職員給与の改正(案)」がメールや文書で出てきているとは思いますが、あくまでも使用者側の案で決まってはいません。勘違いをしないようお願いいたします。組合はあくまでも、ちゃんとした説明がない限りは、今回の人勧準拠に対して反対の姿勢で臨みます。



ホント今回は字ばかりで面白くない機関紙になってしまったけど、今回の使用者側の態度にはホント頭にきません??詳しくはこれから発行されるまともな機関紙、赤煉瓦をご覧ください。

熊本大学教職員組合青年部機関紙
やまくら～ズ 発行 No.17 2005/11/16